



2016年4月27日

各位

スパークス・グループ株式会社
代表取締役社長 阿部 修平
(東証JASDAQスタンダード:8739)

上場インフラファンド市場参入計画見直しのお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2014年7月よりグループ子会社を通じて準備を進めてきた東京証券取引所の上場インフラファンド市場への参入について、計画を見直すことを決議いたしましたので、お知らせいたします。

1. 概要

当社グループは、社会資本整備における長期的かつ安定的な資金循環システムの構築と、電力の安定供給に資するため、再生可能エネルギー事業を主要な投資対象とするインフラファンドの運用事業者として、国内外の機関投資家等に対して投資商品をご提供しております。

このような状況の下、上場インフラファンド市場開設に伴い、2014年7月30日付「上場インフラファンド市場への参入準備開始のお知らせ」の通り、当社では、主に個人投資家等向けに、グループ子会社のスパークス・アセット・トラスト&マネジメント株式会社を通じ、東京証券取引所の上場インフラファンド市場参入に向けて準備を進めてまいりました。

しかしながら、今般、当社グループにおいて想定した再生可能エネルギー事業への投資形態では、投資法人税制の適用を受けることができない可能性が高く、個人投資家等向けに長期的かつ安定的な投資商品としての性質を維持することは困難であると判断し、上場インフラファンド市場参入計画を見直すことといたしました。

2. 決定の理由

上場インフラファンドにおいては、一定の要件を満たした場合、「投資法人に係る課税の特例」が適用され、法人税が課税されません。一方、この要件を満たすためには、上場インフラファンドが投資対象とする発電設備を、別の発電事業者に貸与する必要があるところ、当社グループが採用している現行の投資形態では、これに対応するためにさまざまな契約等の見直しが必要となります。検討の結果、当社グループにおいては、現行の投資形態を存続するメリットが大きいと判断し、引き続き私募基金にて運用する方針とすることを決定しました。

3. 業績への影響

上場インフラファンド市場参入に向けた準備に要した諸費用は少額であり、現時点で今後の当社連結業績に与える影響はないと判断しております。

4. 今後の見通し

当社グループは、上場インフラファンド市場への参入を見送るものの、これまでの再生可能エネルギー発電設備の開発及び運営で得られた知見・ノウハウ・ネットワークを最大限に活用し、今後も引き続きインフラファンドのパイオニアとして皆様のご期待にお応えすべく、魅力的な投資商品の提供を行うため、自ら発電設備の開発とともに、外部からの発電設備の取得も積極的に行ってまいります。

具体的には、当社グループが、これまで提供してきた発電事業等の開発段階から運転開始までのフェーズにおける投資(グリーン・フィールド投資)に加えて、運転開始後のフェーズにおける投資(ブラウ



ン・フィールド投資)にフォーカスした、長期的に安定したキャッシュフローを源泉としたファンドを、機関投資家等向けにご提供する準備を始めてまいります。

■ 関連プレスリリース

2014年7月30日付 「上場インフラファンド市場への参入準備開始のお知らせ」

<http://www.sparx.jp/press/uploads/PressJ140730-01.pdf>

■ 本件に関するお問い合わせ先

スパークス・グループ株式会社 経営管理部

TEL: 03-6711-9100 / FAX : 03-6711-9101